

試験ガイド

第1次試験

8月

企業経営やコンサルティングに関する基本的な知識を問う試験

1次試験は、**中小企業診断士に必要な知識を有するかどうかを判定することを目的**とし、マークシート形式により行われます。なお、他の国家資格の合格者などに対しては、申請により試験科目の一部免除が認められています。

- 試験実施科目
7科目
- 試験問題形式
マークシート形式による多肢選択式
※四肢択一または五肢択一

1次試験概要

受験資格	年齢・性別・学歴等に制限はなし		
試験実施日	8月上旬（2015年度は8月8日（土）、9日（日）（2日間））		
試験科目	試験科目		時間 配点
	1日目	午前 A. 経済学・経済政策	60分 100点
		B. 財務・会計	60分 100点
		C. 企業経営理論	90分 100点
	2日目	午後 D. 運営管理（オペレーション・マネジメント）	90分 100点
		午前 E. 経営法務	60分 100点
		F. 経営情報システム	60分 100点
		午後 G. 中小企業経営・中小企業政策	90分 100点
実施地区	札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡・那覇（2015年度）		
合格発表	9月上旬（2015年度は9月8日（火））		
合格基準	①	総点数による合格基準	免除科目を除く全科目を受験し、総点数の60%以上であってかつ1科目でも満点の40%未満のないことを基準とし、試験委員会が相当と認めた得点比率とする。
	②	科目ごとによる合格基準	科目合格基準は、満点の60%を基準として、試験委員会が相当と認めた得点比率とする。
合格の有効期間	●1次試験合格（全科目合格）の有効期間は2年間（合格年度とその翌年度まで2次試験を受験できる） ●1次試験合格までの科目合格の有効期間は3年間（翌年度と翌々年度まで合格した科目を免除申請できる） ※3年以内に7科目のすべてに合格することで1次試験合格となります。 ※免除科目を除く全科目を受験していない場合、「①総点数による合格基準」は適用されません。 ※科目合格は、1次試験合格となった時点で、それまでの科目合格による受験免除の権利はなくなります。		
受験料	13,000円（税込）（2015年度）		

1次試験科目ガイドは**24ページ**

合格基準の詳細（具体例）は**30ページ**

第2次試験

筆記試験〈10月〉+口述試験〈12月〉

企業の問題点や改善点などに関して解答する筆記試験と面接試験

2次試験は、**中小企業診断士に必要な応用能力を有するかどうかを判定することを目的**とし、中小企業の診断及び助言に関する実務の事例並びに助言に関する能力について、筆記および口述の2段階の方法により行われます。

- 試験実施科目
《筆記》4科目
《口述》筆記試験出題内容をもとに4～5問出題
- 試験問題形式
《筆記》各設問15～200文字程度の記述式
《口述》10分程度の面接

2次試験概要

筆記試験	受験資格	1次試験合格者 ●1次試験合格（全科目合格）年度とその翌年度に限り有効 ●2000年度以前の1次試験合格者は1度に限り有効		
	試験実施日	10月中旬～下旬（2015年度は10月25日（日））		
	試験科目	試験科目	時間	配点
		午前 【事例Ⅰ】組織（人事を含む）を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点
		【事例Ⅱ】マーケティング・流通を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点
		午後 【事例Ⅲ】生産・技術を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点
	【事例Ⅳ】財務・会計を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点	
実施地区	札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡（2015年度）			
筆記試験結果発表	12月上旬（2015年度は12月11日（金））			
口述試験	受験資格	当該年度の2次筆記試験合格者 ※口述試験を受ける資格は当該年度のみ有効であり、翌年に持ち越すことはできません。		
	試験実施日	12月中旬（2015年度は12月20日（日））		
	実施方法	中小企業の診断及び助言に関する能力について、筆記試験の事例などをもとに、個人ごとに面接		
	実施時間	約10分間		
	実施地区	札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡（2015年度）		
	合格発表	12月下旬～1月上旬（2015年度は2016年1月5日（火））		
	合格基準	筆記試験における総点数の60%以上で、かつ1科目でも満点の40%未満がなく、口述試験における評定が60%以上であることを基準とする。		
合格の有効期間	2次試験合格後、3年以内に実務従事・実務補習を受ける必要がある。			
受験料	17,200円（税込）（2015年度）			

2次試験科目ガイドは**26ページ**

〔中小企業診断士登録までの道のり〕

中小企業診断士になるまでには、1次試験、2次（筆記・口述）試験、実務補習・実務従事の3段階のステップがあります。

※当案内は2015年度試験実施例および発表されている日程を基に作成しています。試験要項は、例年試験実施年度の4月上旬～5月上旬に発表されます。

実務補習・実務従事

2月・3月・7月・8月・9月

コンサルティングの実践

実務補習・実務従事は、**中小企業診断士として診断実務能力を有するかを実務を通して判断することを目的**とし、第2次試験合格後、3年以内に実務補習を15日以上受けるか、実務に15日以上従事することにより、中小企業診断士としての登録の申請を行うことができます。

実務補習・実務従事概要

（1）実務補習

①登録実務補習機関による実務補習

受講資格：中小企業診断士第2次試験合格者の中で、3年を経過していない方。

実施期間／実施地区（2015年度例）	札幌	仙台	東京	名古屋	大阪	広島	福岡
1/29（木）・1/30（金）・2/7（土）～2/9（月）（5日間コース）	—	—	○	○	—	—	—
1/30（金）・1/31（土）・2/7（土）～2/9（月）（5日間コース）	○	○	—	—	○	○	○
1/29（木）・1/30（金）・2/7（土）～2/9（月）・2/12（木）・2/13（金）・2/21（土）～2/23（月）・2/26（木）・2/27（金）・3/7（土）～3/9（月）（15日間コース）	—	—	—	○	—	—	—
1/29（木）・1/30（金）・2/7（土）～2/9（月）・2/13（金）・2/14（土）・2/21（土）～2/23（月）・2/27（金）・2/28（土）・3/7（土）～3/9（月）（15日間コース）	—	—	○	—	—	—	—
1/30（金）・1/31（土）・2/7（土）～2/9（月）・2/13（金）・2/14（土）・2/21（土）～2/23（月）・2/27（金）・2/28（土）・3/7（土）～3/9（月）（15日間コース）	○	○	—	—	○	○	○
7/3（金）・7/4（土）・7/11（土）～7/13（月）（5日間コース）	○	○	—	—	○	○	○
7/2（木）・7/3（金）・7/11（土）～7/13（月）（5日間コース）	—	—	○	○	—	—	—
8/21（金）・8/22（土）・8/29（土）～8/31（月）（5日間コース）	—	—	○	—	○	—	—
8/20（木）・8/21（金）・8/29（土）・8/30（日）・8/31（日）（月）（5日間コース）	—	—	—	○	—	—	—
9/11（金）・9/12（土）・9/22（火・祝）～9/24（木）（5日間コース）	○	○	○	○	○	○	○

■実務補習の標準的な流れ（5日間コース例）

実施約1週間前	指導員からメールにて、企業概要の提示や事前準備作業の指示
第1日目～第4日目	グループ別打ち合わせ、企業等の訪問・調査、資料分析、診断報告書の作成など
第5日目	企業等への報告会など（修了証書発行）

※5日間コースは1企業（等）、15日間コースは3企業（等）の実務補習を行う。

- ②受講手数料 5日間コース…………… 50,000円（税込、テキスト有）
15日間コース…………… 148,600円（税込、テキスト有）（2015年度）
- ③中小企業基盤整備機構、都道府県等中小企業支援センターにおける実務補習

（2）実務従事

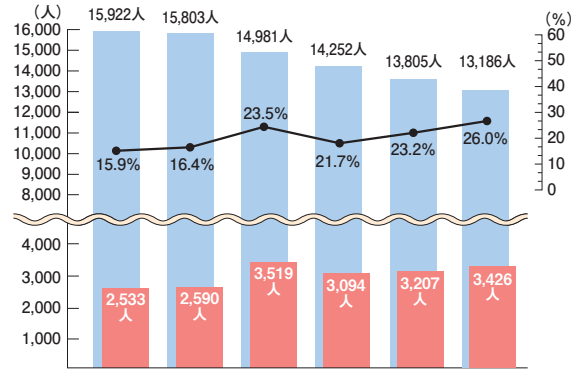
- ①国・都道府県等、中小企業基盤整備機構または都道府県等中小企業支援センターが行う診断・助言業務
- ②中小企業基盤整備機構または都道府県等中小企業支援センターが行う窓口相談等の業務
- ③中小企業に関する団体が行う中小企業の診断・助言または窓口相談等の業務
- ④その他の団体または個人が行う診断・助言または窓口相談等の業務
- ⑤中小企業の振興に関する国際協力等のための海外における業務

実務補習ガイドは**27ページ**

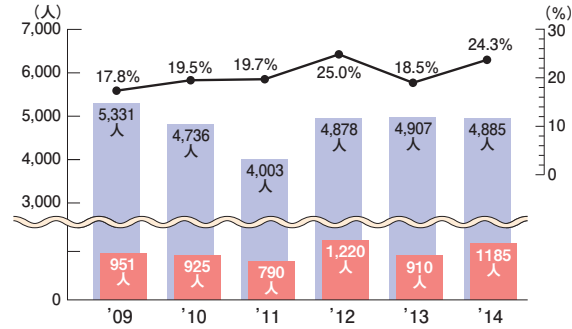
受験者数・合格者数・合格率の推移

%＝合格率
＝1次試験受験者数
＝合格者数
＝2次試験受験者数

第1次試験



第2次試験



※上記の「受験者数」は欠席した科目がひとつもない方的人数です。
※その他の合格者に関する統計資料は32ページをご覧ください。

他資格等保有による免除対象者 ダブルライセンスに有利

科目免除	科目免除対象者（2015年度試験実施例）
経済学・経済政策	大学等の経済学の教授・准教授・旧助教授（通算3年以上） 経済学博士
	公認会計士試験または旧公認会計士試験第2次試験において経済学を受験して合格した者
	不動産鑑定士、不動産鑑定士試験合格者、不動産鑑定士補、旧不動産鑑定士試験第2次試験合格者
財務・会計	公認会計士、公認会計士試験合格者、会計士補、会計士補となる有資格者
	税理士、税理士法第3条第1項第1号に規定する者（税理士試験合格者）、税理士法第3条第1項第2号に規定する者（税理士試験免除者）、税理士法第3条第1項第3号に規定する者（弁護士または弁護士となる資格を有する者）
経営法務	弁護士、司法試験合格者、旧司法試験第2次試験合格者
経営情報システム	技術士（情報工学部門登録者に限る）、情報工学部門に係る技術士となる資格を有する者
	次の区分の情報処理技術者試験合格者（ITストラテジスト、システムアーキテクト、応用情報技術者、システムアナリスト、アプリケーションエンジニア、システム監査、プロジェクトマネージャ、ソフトウェア開発、第1種、情報処理システム監査、特種）

※科目免除者および科目合格者は科目免除割引制度をご利用いただけます。詳しくは77ページをご覧ください。

試験・実務補習に関する問い合わせ

一般社団法人 中小企業診断協会

〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-11 銀松ビル

■TEL 03-3563-0851(代)

■ホームページ <http://www.j-smeca.jp/>

●試験要項は、例年4月上旬～5月上旬に発表されます。

1次試験科目ガイド

1次試験科目の学習内容を紹介します。

試験科目と企業を取り巻く環境

中小企業診断士の試験科目は、一般的な企業の組織や業務内容と大変関わりが深い内容となります。

Subject 01	経済学・経済政策
経済状況や動向を知る	
Subject 07	中小企業経営・政策
コンサルタントとして中小企業の経営特性や支援施策を知る	
Subject 05	経営法務
企業経営に関する法律や諸手続を学ぶ	
Subject 06	経営情報システム
企業における情報システムの知識を学ぶ	



Subject 01 経済学・経済政策

▶ 概要

～経済動向は企業行動を決定する基軸～

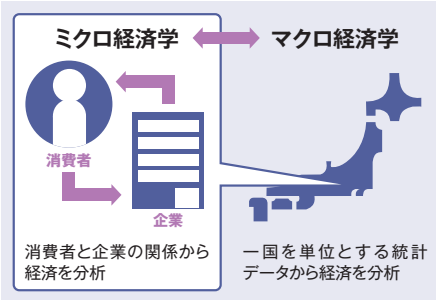
マクロ経済学とミクロ経済学を中心に学習します。マクロ経済学は一国を単位とした経済活動（国民所得・投資・消費・貯蓄などの集計値）、ミクロ経済学は一人の経済活動（企業の生産活動や家計の消費活動など）を分析するものです。これら経済環境の変化を把握し、企業活動に対する影響を検討することは、ビジネスにおける意思決定に必要な知識といえます。

▶ 出題範囲

国民経済計算の基本的概念／主要経済指標の読み方／財政政策と金融政策／国際収支と為替相場／主要経済理論／市場メカニズム／市場と組織の経済学／消費者行動と需要曲線／企業行動と供給曲線／産業組織と競争促進 等

◆公認会計士（経済学受験）、不動産鑑定士などは科目免除申請できます。詳しくはP23「他資格等保有による免除対象者」をご確認ください。

科目 合格者の 推移	2013年	2014年	2015年	2次試験との関連性
科目受験者数	12,100	13,398	11,956	★☆☆
科目合格者数	258	2,601	1,852	
科目合格率 (%)	2.1	19.4	15.5	



Subject 02 財務・会計

▶ 概要

～企業の経営分析に必須の知識～

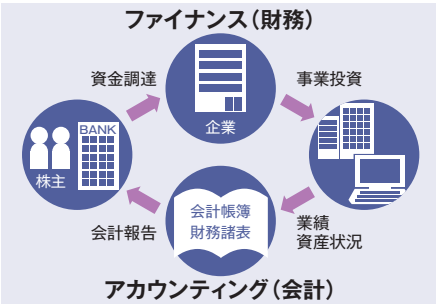
企業の財務状況等を把握し、その問題点を抽出する場合に、財務諸表等による経営分析は重要な手段となります。この財務諸表等から得られる数値（利益・資産・資金等の状況）を理解・分析するために必要な知識が財務・会計です。この科目は計算問題が多く、また2次試験の「事例Ⅳ（財務・会計）」に対応しており、応用力が求められることから、単なる暗記では対応が困難となります。

▶ 出題範囲

簿記の基礎／企業会計の基礎／原価計算／経営分析／利益と資金の管理／キャッシュフロー／資金調達と配当政策／投資決定／証券投資論／企業価値／デリバティブとリスク管理 等

◆公認会計士、税理士などは科目免除申請できます。詳しくはP23「他資格等保有による免除対象者」をご確認ください。

科目 合格者の 推移	2013年	2014年	2015年	2次試験との関連性
科目受験者数	14,343	12,784	12,649	★★★
科目合格者数	2,374	784	4,666	
科目合格率 (%)	16.6	6.1	36.9	



Subject 03 企業経営理論

▶ 概要

～企業経営・企業診断の基礎～

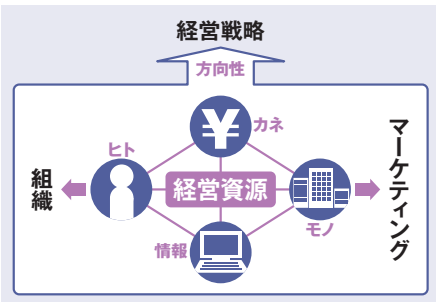
この科目は、事業領域の決定に関する「経営戦略論」、経営資源の人に関連する「組織論」、消費者のアプローチに関連する「マーケティング論」を学習します。これらは、企業の経営に関する現状分析および問題解決、将来の事業計画策定に必要な不可欠の知識といえます。また、2次試験の「事例Ⅰ（組織【人事を含む】）」と「事例Ⅱ（マーケティング・流通）」においても中心課題となる重要な科目と位置付けられています。

▶ 出題範囲

■経営戦略論
経営計画・管理／企業戦略／成長戦略／経営資源戦略／競争戦略／技術経営／国際経営 等

■組織論
経営組織の形態と構造／経営組織の運営／人的資源管理 等

■マーケティング論
マーケティング計画と市場調査／消費者行動／製品計画／価格計画／流通チャネルと物流／プロモーション 等



科目 合格者の 推移	2013年	2014年	2015年	2次試験との関連性
科目受験者数	13,711	13,796	12,628	★★★
科目合格者数	935	1,849	2,105	
科目合格率 (%)	6.8	13.4	16.7	

※各科目の表中の「科目合格者数」には1次試験合格者は含まれません。
※各科目の表中の「科目合格率」は小数点第2位を四捨五入しています。

Subject 04 運営管理 (オペレーション・マネジメント)

▶ 概要

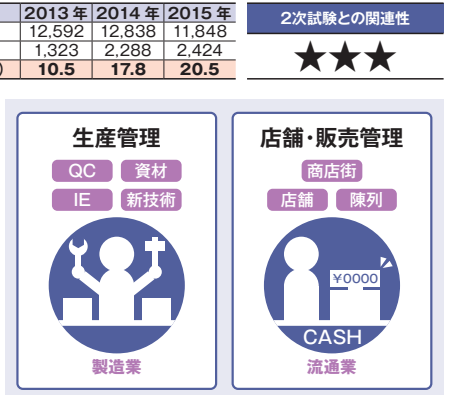
～企業の現場に即した診断・助言に必須～

この科目は、製造工程や品質管理等を中心とした「生産管理」と、店舗施設や立地、販売・流通等を中心とした「店舗・販売管理」を学習します。これらは、企業の現場に即した問題点の把握や課題解決方法の提示を行うために必要な知識となります。また、この科目は2次試験の「事例Ⅱ（マーケティング・流通）」と「事例Ⅲ（生産・技術）」に対応しています。

▶ 出題範囲

■生産管理
生産管理概論／生産のプランニング／生産のオペレーション 等

■店舗・販売管理
店舗・商業集積／商品仕入・販売（マーチャンダイジング）／商品補充・物流／流通情報システム 等



Subject 05 経営法務

▶ 概要

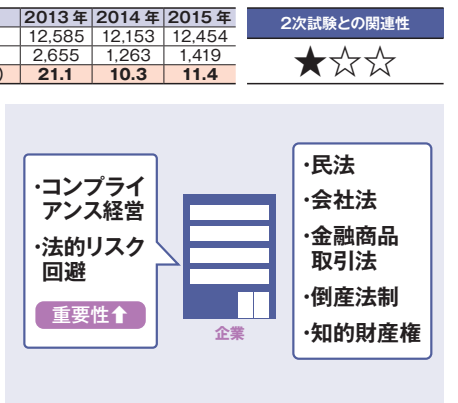
～ビジネス関連の法律知識を学習～

創業から株式上場あるいは知的財産権の活用など、企業経営は様々な法律の枠組みの中で行われています。その経営にまつわるビジネス関連の法律を中心に、諸制度、手続等に関する実務的な知識を学習するのが経営法務です。コンプライアンス（遵法）経営が求められ、企業のリスク管理の重要性が高まる中、中小企業診断士にとっても法務知識は不可欠といえます。

▶ 出題範囲

事業開始、会社設立及び倒産等に関する知識／知的財産権に関する知識／取引関係に関する法務知識／企業活動に関する法律知識／資本市場へのアクセスと手続 等

◆弁護士等は科目免除申請できます。詳しくはP23「他資格等保有による免除対象者」をご確認ください。



Subject 06 経営情報システム

▶ 概要

～社内の情報・ネットワークの管理に不可欠～

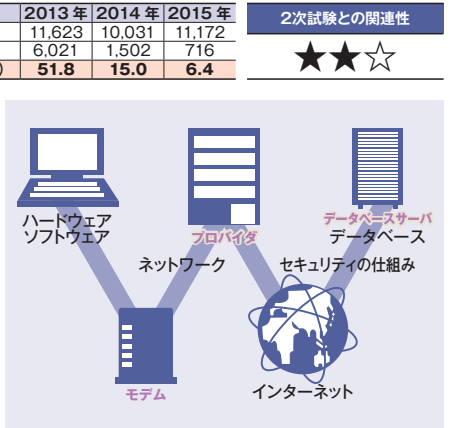
この科目の対象領域は、大きく二つに分かれています。一つがIT、いわゆる情報技術に関する領域、そしてもう一つが企業における情報システムに関する領域です。ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど技術的な知識とシステム構築の基礎を学習します。

▶ 出題範囲

■情報通信技術に関する基礎的知識
情報処理の基礎技術／データベースとファイル／通信ネットワーク／システム性能 等

■経営情報管理
経営戦略と情報システム／情報システムの開発／情報システムの運用管理／情報システムの評価／外部情報システム資源の活用／情報システムと意思決定 等

◆技術士、一部の情報処理技術者試験合格者等は科目免除申請できます。詳しくはP23「他資格等保有による免除対象者」をご確認ください。



Subject 07 中小企業経営・政策

▶ 概要

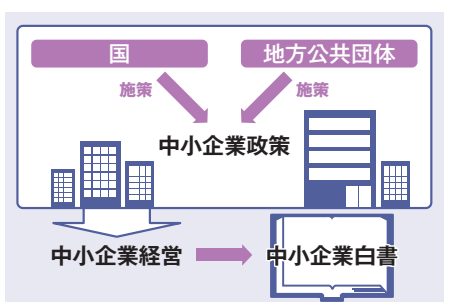
～中小企業の実態や国の施策を知る～

この科目は、企業に対して的確なコンサルティングを行うための知識を身に付けることを目的としています。「中小企業経営」は、中小企業の経営特性や経営課題、中小企業の実態を理解する科目であり「中小企業白書」からの出題が大半を占めます。「中小企業政策」は、国や地方自治体が講じている各種の施策について学習します。

▶ 出題範囲

■中小企業経営
経済・産業における中小企業の役割、位置づけ／中小企業の経営特性と経営課題 等

■中小企業政策
中小企業に関する法規と政策／中小企業政策の役割と変遷 等



科目 合格者の 推移	2013年	2014年	2015年	2次試験との関連性
科目受験者数	13,210	12,283	10,571	★☆☆
科目合格者数	2,229	3,826	1,290	
科目合格率 (%)	16.9	31.1	12.2	

試験ガイド

2次試験科目ガイド

2次筆記試験・口述試験の学習内容と攻略のポイントを紹介します。

Subject 01 筆記試験

2次試験の出題形式は、企業の「事例」が与件文(2~4ページ)として提示され、その事例に関する問題が4~5問程度出題されます。また、大半の設問で解答に15字~200字程度の字数制限があります。記述する文

章のボリュームはそれほど多くはありませんが、制限時間内に決められた条件設定で出題者の意図に沿った解答をまとめるという難しさがあるといえます。事例の内容は下記の通り、4つのテーマに分かれています。

テーマ	2013年度 出題内容	2014年度 出題内容
事例Ⅰ	組織(人事を含む)を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: サプリメント通信販売業者 設問: 内外業務区分、非正規雇用者社員の活用、顧客データベース	業種: 精密ガラス加工メーカー 設問: 経営環境の変化、組織管理上の課題、人的資源管理
事例Ⅱ	マーケティング・流通を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 水産練物の製造小売業 設問: 内部環境分析、パッケージ、POSデータの分析、通信販売	業種: 旅行業者 設問: PPM、コミュニケーション戦略、デシル分析、商品開発
事例Ⅲ	生産・技術を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 通信用部材の生産・据付け 設問: 競争優位性、工場の役割分担、CAD、新規事業開発	業種: 超精密小型部品の生産、販売 設問: 環境分析、保全活動、経営計画、販路開拓
事例Ⅳ	財務・会計を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 医薬品製剤製造会社 設問: 経営分析、CF、資金調達手段、品質原価	業種: 喫茶店 設問: 経営分析、CF、NPV、セールスマックス、為替リスクのヘッジ

事例テーマ別 傾向と攻略ポイント 2001年~2014年度の問題をもとにした出題傾向および攻略ポイントです。



事例Ⅰ 組織(人事を含む)

組織・人事にとどまらず、戦略面などのかなり大きなテーマからも出題され、全体的に難問となる傾向があります。また、事例企業の組織図が提示される場合は、さらに内容の把握が難しいものになります。**得点しやすい設問から解答し、“大くずれ”しないことを心がけた解答をつくるべきでしょう。**



事例Ⅲ 生産・技術

製造業(あるいはそれに関連する業種)からの出題が想定され、現状の問題点を指摘して改善案を策定する問題が中心となります。難易度は高いですが、設問間の関連性は低いため、対策としては、**まず設問全体を確認し、点の取りやすいものから取り掛かるという方法が得策です。**また、因果関係を正確に把握することが重要となります。



事例Ⅱ マーケティング・流通

小売業やサービス業等、誰もがイメージしやすい企業が
出題される傾向にあり、比較的取り組みやすい事例といえます。他の事例に比べて与えられる情報量が多く、また、時系列的な構成になっています。そのため、**まず事例全体のストーリーを把握した上で解答を作成する方法が効果的です。**



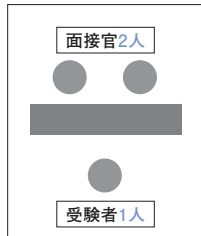
事例Ⅳ 財務・会計

他の3つとは対策が大きく異なります。過去には、キャッシュフロー計算書の作成など、文章記述以外の問題が出題されており、こうした計算問題を確実に得点できるよう、トレーニングを積む必要があります。苦手な方も多い領域ですが、計算問題は配点も高く、確実に解けるようになれば得点源として期待できるようになります。**1次試験科目の「財務・会計」の実力を高めておくことが合格への近道です。**

Subject 02 口述試験 (2014年度実施例)

▶ 試験形式

口述試験は、面接官2人対受験者1人という形式で実施されました(右図)。試験時間は受験者1人につき、約10分間で行われます。



▶ 試験内容

口述試験では、筆記試験の事例問題で登場した4つの企業(A社・B社・C社・D社)について、筆記試験とは異なる角度で質問されています。出題される質問事項は、受験者によって異なります。基本的には、受験者1人につき、2つの企業が選ばれ(例:A社とD社)、1つの企業につき2題(つまり計4題)を出題するケースが多いようです(ただし、人によっては4つの企業について問われるケースや、1企業についての質問が3~4題に及ぶケースもあり、必ずしも統一した形ではありません)。なお、口述試験を受験するに当たっては、一切の資料・書籍等を見ることはできません。

▶ 概要と攻略ポイント

筆記試験で出題された事例の状況を的確に把握しておくこと、想定される質問に対する回答をある程度準備しておくことが必要となります。また、試験当日に落ち着いて受け答えできるよう、模擬面接を受けることも効果的です。

実務補習ガイド

中小企業診断士として登録を受けるには、2次試験合格後、3年以内に実務補習を15日以上受けるか、実務に15日以上従事することが必要です。ここでは、そのうちの実務補習(登録実務補習機関による実務補習)についてご案内します。

実施地区および実施期間

登録実務補習機関による実務補習は、1コース5日間もしくは15日間で設定されています。例年、全国各地で2・3月、7・8・9月に実施され、土日祝中心に行われます。(2015年7~9月実施例)

地区	コース	実施日
札幌	7月コース	7/3(金)・7/4(土)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	9月コース	9/11(金)・9/12(土)・9/22(火・祝)・9/23(水・祝)・9/24(木)
仙台	7月コース	7/3(金)・7/4(土)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	9月コース	9/11(金)・9/12(土)・9/22(火・祝)・9/23(水・祝)・9/24(木)
東京	7月コース	7/2(木)・7/3(金)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	8月コース	8/21(金)・8/22(土)・8/29(土)・8/30(日)・8/31(月)
名古屋	7月コース	7/2(木)・7/3(金)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	8月コース	8/20(木)・8/21(金)・8/29(土)・8/30(日)・8/31(月)
大阪	7月コース	7/3(金)・7/4(土)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	8月コース	8/21(金)・8/22(土)・8/29(土)・8/30(日)・8/31(月)
福岡	7月コース	7/3(金)・7/4(土)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	9月コース	9/11(金)・9/12(土)・9/22(火・祝)・9/23(水・祝)・9/24(木)

地区	コース	実施日
広島	7月コース	7/3(金)・7/4(土)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	9月コース	9/11(金)・9/12(土)・9/22(火・祝)・9/23(水・祝)・9/24(木)
福岡	7月コース	7/3(金)・7/4(土)・7/11(土)・7/12(日)・7/13(月)
	9月コース	9/11(金)・9/12(土)・9/22(火・祝)・9/23(水・祝)・9/24(木)

※日程は必ず社団法人 中小企業診断協会ホームページにてご確認ください。

平日にあまり休めない
社会人の方も安心!

実務補習は、社会人の方でも参加しやすいよう、土日祝中心の日程も多く用意されています。

東京(9月コース)の場合▶

9月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26

平日実施は2日のみ

実施方法

受講者6名以内でグループを編成し、指導員の指導のもと、実際に企業等に対する経営診断・助言を行います。標準的な全体の概略は次のとおりです。

1企業当たりの日程	主な内容
実施4~5日前	指導員からメールにて、企業概要の提示や事前準備作業の指示が行われます。
第1日目	グループ別打ち合わせ、企業等の訪問・調査、資料分析など。
第2日目	企業等の訪問・調査、資料分析など。
自主作業	受講者・指導員間でメールにて、経営課題の抽出や診断報告書の作成準備を行います。
第3日目・第4日目	全体調整、診断報告書の作成。
第5日目	企業等への報告会など。

最終日に「実務補習修了証書」が授与されます。

▶ 具体的な実施内容例

第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
[A.M.] 担当指導員およびチームメンバーの自己紹介、座学、診断打ち合わせ。役割分担決め。 [P.M.] データ収集。区役所にて、区の昼間人口、夜間人口、診断先の最寄駅近辺の同業店の数に関する資料調査。診断先の最寄駅で乗降客数調査を実施。診断先店舗へ赴き実地調査を実施。その後、本社へ移動し、ヒアリング実施。懇親会実施。	[A.M.] データ整理、分析実施。本社から入手した資料(財務諸表や人事関連資料等)の共有。 [P.M.] データおよびヒアリングを基にSWOT分析を実施。診断の方向性を決定。次回までに、各自の担当分野の診断レポートを書き上げる。	[A.M.] 第1回原稿チェック。各自の原稿の読み合わせを行い、方向性を確認。 [P.M.] レポートを基に、提案内容を確認、修正。	[A.M.] 第2回原稿チェック。変更点のみ読み合わせ。 [P.M.] 付図付表の整合性チェック、レイアウト統一、誤字脱字チェック。印刷製本発注。	[A.M.] 製本チェック。実務補習修了証書授与。診断報告書提出。プレゼンテーション練習。 [P.M.] 本社へ移動し、報告会実施。懇親会。



WINNER'S VOICE

診断士としての経験やノウハウが詰まっていました!

補習中は会社、診断士、そして家庭での役割を同時にこなさなければならず、非常に忙しい毎日でしたが充実していました。途中、指導員の先生からいただいたアドバイスは、診断士としての経験やノウハウが詰まっており、大変参考になりました。実際のコンサルの現場では応用力や実践力、そして、人としての「人間力」が重要であることを痛感させられました。

田中 康夫さん

WINNER'S VOICE

コンサルティング業務を一通り経験できました!

机上の勉強だけでは身につかない、実際のコンサルティング業務の現場を垣間見ることができて、これまでの勉強を実務にどのように活かすべきなのかを体得することができました。また、さまざまな業種で働く診断士の仲間もでき、それぞれの診断士に対する思い入れや実務での活かし方を聴いたことで、より一層診断士業務の現実感が湧いてきました。

鈴木 佐和さん

※ ぜひご覧ください! ※

「実務補習レポート」をTACホームページ上で無料公開中! TAC 診断士 実務補習 検索

中小企業診断士試験の学習を検討中で、受講についてご相談のある方は 裏表紙 へ!

合格への提案

試験合格には、戦略的な対策が不可欠です。

効果的な学習計画の設定には、試験制度を知り、学習のポイントを押えることが重要です。

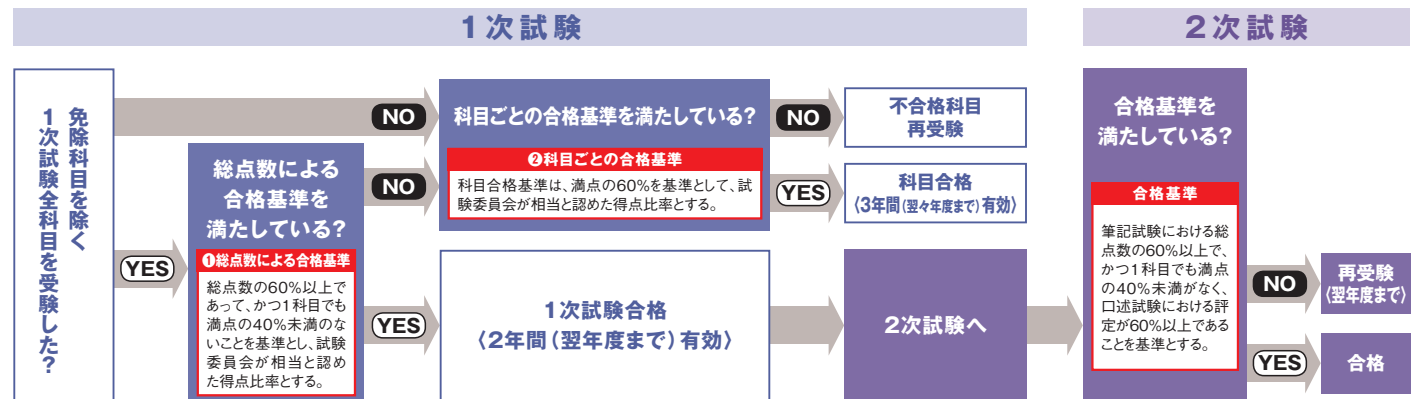
合格への提案

I

試験制度を知る

資格試験対策では、学習を戦略的かつ効率良く進めるために、まずは試験制度をしっかり理解することが鉄則です。

Point 1 1・2次試験合格までの流れを知る



1次試験の合格基準は、総点数による合格基準のほか、科目ごとにも設けられ、**3年以内**(合格年度含む)で全科目(7科目)に合格した時点で「1次試験合格」となります。一部の科目だけ合格した場合は「科目合格」とし、翌年度・翌々年度の試験では、**受験者の申請により**当該科目の試験が免除されます。

※科目合格は、1次試験合格となった時点で、それまでの科目合格による受験免除の権利はなくなります。

Point 2 1次試験の合格基準を、具体的な得点例で確認する

1年で合格するパターン

	経済学・経済政策	財務・会計	企業経営理論	運営管理	経営法務	経営情報システム	中小企業経営・政策	総点数
2016年度	60点	40点	75点	65点	45点	70点	65点	420点

7科目の総点数(700点)の60%(420点)以上で、かつ40%(40点)未満の科目がないため、「総点数による合格基準」を満たしており、「1次試験合格」となります。

合格まで2年要するパターン(1年目は科目合格)

	経済学・経済政策	財務・会計	企業経営理論	運営管理	経営法務	経営情報システム	中小企業経営・政策	総点数
2016年度	65点 ○	50点 ×	55点 ×	50点 ×	60点 ○	45点 ×	65点 ○	390点
	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	
2017年度	免除申請	60点	55点	70点	免除申請	55点	免除申請	240点

2016年度は「総点数による合格基準」は満たしておらず、「科目ごとの合格基準」を満たす3科目が科目合格となります。

2017年度は3科目免除申請のうえ残りの4科目(総点数400点)を受験し、「総点数による合格基準」を満たしているため、「1次試験合格」となります。

※ぜひご覧ください!※

「試験制度」を動画で紹介!

TACホームページ内、「TAC動画チャンネル」で無料でご視聴いただけます!

TAC 診断士 動画チャンネル

検索

中小企業診断士試験の学習を検討中で、受講についてご相談のある方は **裏表紙** へ!

合格への提案

II

学習のポイントを押さえる

試験制度をしっかり理解した上で、ポイントを押さえた効率的・効果的な学習をすることで、中小企業診断士試験の合格が近づきます。

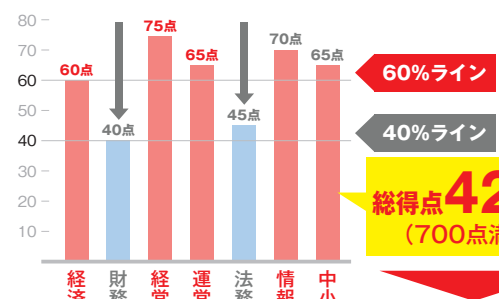
Point 1 1次試験全7科目を受験するメリット

1次試験は、「科目合格制」を利用して複数年で合格しようとすると、学習負担やリスクが大きくなる恐れがあります。なぜなら、①「科目合格」は各科目とも満点の60%以上の点数を取る必要があり、得意科目で苦手科目を補うことができないため、②2年目以降の受験科目数が少ないと科目難易度変化のリスクが大きくなるため、です。

そこでTACでは、**全7科目の「総点数」で合格基準を満たすことを目標に、学習計画を立てる方法をオススメします。**なぜなら、総点数による合格基準では、受験科目の総点数が満点の60%以上であればよく、また、たとえば苦手科目や急激に難易度が上がった科目があっても、40%以上を確保していれば、他の科目でフォローすることが可能だからです。

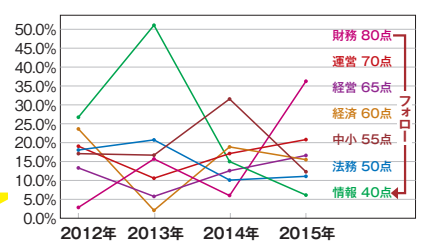
【得意科目で不得意科目をフォロー】

科目合格基準(60%)に満たない科目があっても「**総点数**」で合否判定すると…



【難易度の低い科目で難易度の高い科目をフォロー】

科目合格基準(60%)に満たない科目があっても「**総点数**」で合否判定すると…



▲科目合格率(難易度)の推移

1次試験合格! 合格ライン=420点

Point 2 1次試験と2次試験の深い関連性

1次試験と2次試験の学習内容には密接な関連があります。1次試験の受験期間が長くなれば、先に合格(学習)した科目の知識は薄れてしまい、結果、2次試験受験に必要という理由で、同じ科目の学習に時間を費やすことになります。時間やコストの面から考えても、1次試験の知識が高い精度で定着しているうちに、2次試験の受験を目指すべきです。

また、1次試験対策中も常に2次試験を意識した学習を行うと効率的です。

TACでは、1次試験対策の「基本講義」でも、2次試験対策において重要な領域については、さらに深く掘り下げた講義を行い、2次試験の観点から知識を使える状態を早期に作り上げていきます。

1次試験と2次試験の関連

1次試験	2次試験
企業経営理論	事例Ⅰ(組織) 事例Ⅱ(マーケティング・流通)
運営管理	事例Ⅲ(生産・技術)
財務・会計	事例Ⅳ(財務・会計)
その他、「経営情報システム」も2次試験に関連する科目となります。	

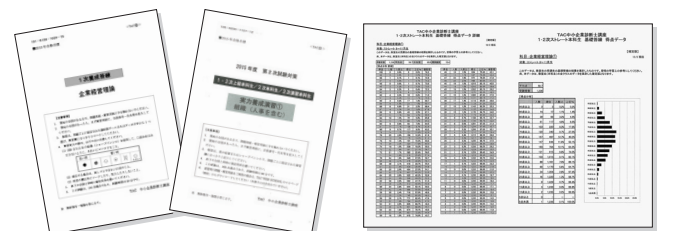
Point 3 合格に必要な学習量や学習方法は科目ごとに異なる

科目ごとに学習量や学習方法も異なりますので、まずは科目ごとの特徴を捉えて戦略的に学習する方法を身につけましょう。学習の順序としては、経営診断の基本となる「企業経営理論」や、1次試験・2次試験ともに重要とされ、理解にも時間がかかる「財務・会計」からスタートし、他の科目へと進めていく方法が効果的です。さらに、はじめに企業経営の視点から試験の全体像を把握しておく、学習の理解度が早まります。



Point 4 受験生の中での自分の正確な位置を常に把握する必要性

1次・2次試験とも、学習過程においてどの程度対応力がついているのか、自分自身では判断が困難です。そのため、多くの受験生の中で自分の位置がどこにあるのかを把握することは、学習する上において不可欠といえます。TACの受講生数は業界最大級ですので、大きな母集団での数多いアウトプット学習(答案練習・事例演習等)を行い、他人と比較することで、常に自分自身の位置を把握する事が可能になります。



戦略的カリキュラム

- ◆1・2次ストレート本科生
- ◆1・2次ストレート速修本科生
- ◆1・2次ストレート総合本科生

1・2次
プレミアム本科生は
P64をご覧ください。

TACオリジナル 「3回転方式」

TACのカリキュラムは、「ストレート合格するための戦略的学習」を徹底的に分析して作られました。TACが開発した「3回転方式」は、効果的に「覚える」「覚えなおす」「定着させる」作業が行え、受講生を合格まで導きます。

ここがTAC!

TACの カリキュラムが 戦略的である理由

Point 1 これだけでOK! 1・2次ストレート合格にとことんこだわったカリキュラム設計

TACのカリキュラムは、ストレート合格するために必要な「講義」「教材」「フォロー制度」「ノウハウ」などが全て揃っています。他に手を広げる必要はなく、これだけしっかりこなせば十分です。

Point 2 早期に1・2次試験に必要な知識をしっかり習得!

4月までに基本編の講義・答練を終了し、合格に必要な知識を習得します。早期に全体を把握し、2回転目がスタートすることで、「覚えなおす」「定着させる」期間を十分に確保できるので安心です。

Point 3 豊富な演習量による弱点克服と最新情報によるポイント整理! 鉄壁の1次対策

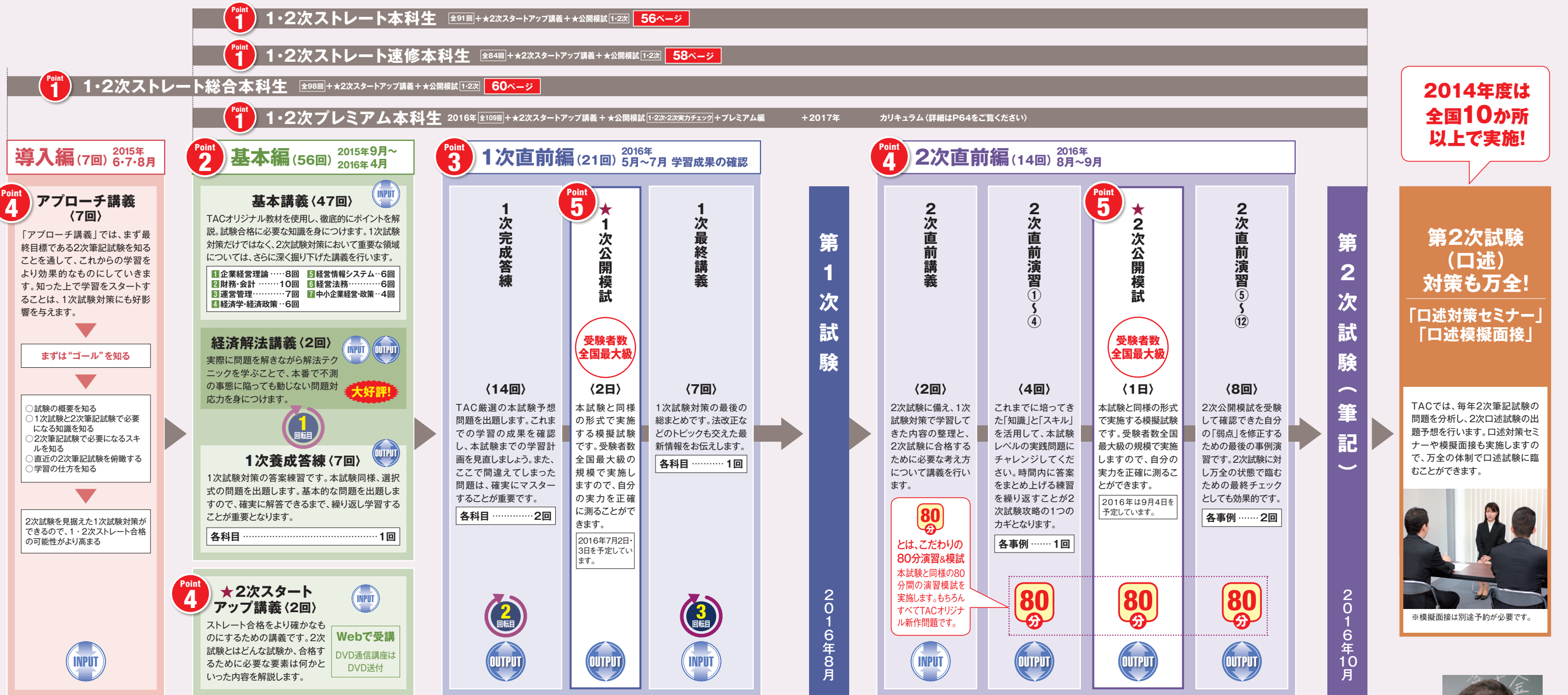
5月上旬から、「1次完成答練」で2回転目の学習が始まります。1次直前期の答練で問題対応力が飛躍的にアップします。また、7月から「1次最終講義」で3回転目の学習が行え、万全の状態でご試験に臨めます。

Point 4 質の高い演習問題と丁寧な添削指導で実践力アップ! 充実の2次対策

1次試験対策と併せて「アプローチ講義」「2次スタートアップ講義」を実施。早期から2次試験対策に取り組みます。1次試験後の2次直前期のカリキュラムも内容・回数とも充実しており、質の高い演習問題と丁寧な添削指導で2次攻略スキルを体得します。

Point 5 比べてください! このスケール! 全国最大級の公開模試!

TACの公開模試は全国最大級。そのレベル・規模・フォローなどの全てにおいて自信を持ってお勧めできます。TAC公開模試受験者は、1次は**4,193人**(2014年度)、2次は**2,769人**(2014年度)を数え、多くの方々に支持されています。



2014年度は
全国**10**か所
以上で実施!

80分

とは、こだわりの80分演習&模試。本試験と同様の80分間の演習模試を実施します。もちろんすべてTACオリジナル新作問題です。

80分

80分

80分

ここがTAC!

3回転とは?

7科目を一通り学習することを「回転」と名付けました。回転学習(繰り返しの学習)が知識を定着させ、合格を実現します!

4月までに「基本編」で合格に必要なインプットを終了し、7科目の学習を早期に1回転。

1 回転

5月から「1次完成答練」で2回転目を学習、実践力をUP。

2 回転

最後に「1次最終講義」で最終確認を行い、3回転目が終了。

3 回転

※当カリキュラムは本試験の傾向に合わせ、一部変更となる場合があります。

講師からのMESSAGE

合格するための「攻め方」がTACのカリキュラムには詰まっています!

TACが自信を持って提供する「戦略的カリキュラム」に沿って学習を進めて頂ければ、本試験で充分に戦える力が、必ず身につきます。初学者でも無理なく無駄なく学習できるスケジュールですので、しっかりこなしていけば、必ず合格が見えてきます。TACの「戦略的カリキュラム」を信じて、一緒に頑張ってください!

アラキ シンゴ
荒木 慎吾先生
(関西、中国地区)



※2016年合格目標1・2次ストレート本科生、1・2次ストレート速修本科生、1・2次ストレート総合本科生、2016年・2017年合格目標1・2次プレミアム本科生は、1次公開模試、2次公開模試の受験料がコース受講料に含まれています。